



写真提供：佐伯泰英事務所

馬六甲の名物に舌鼓

佐伯通信

2013年1月(平成25)
第14号

発行 佐伯泰英事務所
担当 双葉社
禁断転載

前号でインド旅行のことを書いたが、いきなりインドに飛んだのではなかった。あちこちの海に落ちる夕日を見たくて、最初のマレーシアのマラッカから旅を始めた。ご存じのように本軍の占領下にあったにも

拘わらず、親日的な国であり、「ルック・イースト」と日本の復興を見習い、急速に経済復興してきた国だ。このマラッカにはポルトガル、オランダ、イギリス植民地支配の遺跡が混在し、これらの歴史を強かに外国人観光客に見学させて人気を集めている。町並みも漢字文化圏で日本人になつてく。また食事が実に私たちが家族の口に合った。俗に名物にうまいものなし」というが、マラッカ名物「鶏飯

佐伯泰英／近刊のお知らせ

4月

12日発売予定

『再会』(仮)
《講談社文庫》
交代寄合伊那衆異聞 18

3月

12日発売予定

『無宿』
《光文社文庫》
吉原裏同心 18
「佐伯通信」第15号より入ります。
〔初版、初回出荷限定〕

2月

7日発売予定

『酔いどれ小籐次留書』
《幻冬舎時代小説文庫》
状箱騒動 19

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。

<http://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2013年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもと6回発行いたします。
株式会社、株式会社、株式会社、株式会社、株式会社、株式会社

「隣は何を読む人ぞ」

双葉社 文庫編集部 担当 奥山康浩
「居眠り聲音 江戸双紙」



通勤電車で文庫本を読んでいる人を見かけると、何を读んでいるのかと、つい盗み見てしまふ、これ、編集者の職業病みたいなものです。昨年、旭川出張の帰りに羽田行きの最終便に搭乗した折も、歳の頃五十歳ぐらいの男性が隣の座席で文庫本を読んでいた。羽田まで二時間弱、あとは寝るだけと思いながら、いつもの癖でさりげなく横目でページを盗み見た。すると、な、なんと「速水左近」という文字が目飛び込んできたではありませんか。「おお一つ、聲音だあ！」と心の中で拍手喝采、欣喜雀躍、そして平身低頭、思わす手をとってお礼を言いたくなる衝動を必死で堪えた。そう、この時点で眠気はぶっ飛んでいます。以前、佐伯先生が電車の中で自分の本を読んでいる人を初めて見かけたとき、「あ、僕の本を読んでいる人が本当にいるんだ」と初めて生身の読者の存在を感ぜられたらしい。自分が書いた小説を、たままた同じ電車で乗り合わせた見ず知らずの人が読んでいる、めちゃめちゃ嬉しくてちょっと恥ずかしいこの状況に居たたまれなくなった先生は、次の駅で下車し別の車両に移られたとか。だが機中にある私はそうもいかない。「途中で読むのをやめたりしないか」とか「(ありえないけど)話しかけられたらどうしよう」とか、気になって気になって一人緊張していた。約二時間、隣の紳士が物語世界に没頭しているその横で、私は何とも落ち着かない至福の時を過ごしたのであります。改めて、この場を借りて全ての読者に御礼申し上げます。

「居眠り聲音 江戸双紙」HP <http://inemuriwane.jp/>

粒」は絶品でした。私たちが食べた店は日曜日とあって首都のクアラルンプールから日帰りのバスツアーの客で賑わい、それでも一人のおぼやんが大声できびきびと広い店内の満席状況を観察しながら、鮮やかに行列を捌いてくれる。また十二、三歳の子とも店員にも目配りし、働かせる手並みもまた見事だった。おぼやんが自信に満ちて生き生きと、また遊びたい盛りの子どもがせっせと、と働く光景は戦後の日本の

よう、懐かしい。中華料理の味付けとは異なる地鶏のエキスがしみ込んだ鶏飯粒は、格別に凝った料理ではないのに美味でした。鶏飯粒が実に安価でした。鶏飯粒を食べるためにマラッカに一つ一度訪ねてもよいとさえ考えている。
新玉の年が平穏な年でありますように、読者諸賢に思いを込めて御慶を申し上げます。
「佐伯通信」第15号は、3月12日刊行予定の「吉原裏同心18 無宿」(光文社文庫)に入ります。

出版社からのお知らせ
《双葉文庫》
「居眠り聲音 江戸双紙」シリーズ累計
1500万部突破
フェア開催中！
昨年10月新刊第40巻「春霞ノ乱」の発売に際して、シリーズ累計1500万部を突破いたしました。それを記念して、昨年末より全国書店でフェアを開催中です。シリーズ本巻既刊本41冊のほか「居眠り聲音 江戸双紙」読本、帯巻準備号「橋の上」吉田版「居眠り聲音」江戸地図なども取り揃えております。この機会に店頭にてお喜びください。